

学長式辞（2010年9月21日 学位記授与式）

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

また、関係者の方々も、はらはらなさった方もいらっしゃるかもしれませんが、今日、こうやって無事に卒業の日を迎えることができることを心からお喜びのことと思います。

皆さんは、明日から社会人ということになって、今までの学生という身分でなくなります。学生という身分は、やはりいろいろな意味で保護されている身分であったと思います。

動物には保護色というのがあって、周りから見分けがつかないように、全く背景と一体化してしまうという機能をもった動物がいます。

ブログにも書いているように、毎朝犬の散歩で近くの川を歩いていますが、最近そこに小さな魚がいることに気付きました。もう10年以上散歩しているんですが、つい最近まで気付いていなかったんです。

川には大きな鯉がいて、あれは目立ちます。でも、小さな、せいぜい10cmくらいの魚がなぜ見えなかったかと言うと、川底の砂と全く同じ色をしているからです。じっとしていたら全然わからないけれど、サアと群をなして動いたので気付いたわけです。それにしても、気付くのが遅すぎたのではないかと思います、保護色になっていたんです。あそこには鳥などもいっぱい来ますので、変に目立つ色をしていると食べられてしまうということがあるのかもしれない。

何年前に、同じように小さいんですが、10匹くらい赤い魚がいたことがあります。あれが大きくなったら鯉になるのではないかと勝手に思っていたんですが、いつの間にかいなくなっていました。やはり、保護色をしていない、目立つ魚は早く食べられてしまったのかなと思っています。

皆さんの場合には、大学を卒業するという事で保護がなくなります。今までは学生の一人として何となく目立たない存在でもよかったかもしれませんが、これからは一人で自立した社会人として生きていかないとはいけません。

そのことは最初はちょっと大変だなと思うかもしれませんが、だけど、ここまで頑張って大学を卒業したわけですから、そのねばり強さと言ってよいものは、これから社会で十分役に立つのではないかと思います。

魚が今まで見えなかったということで、もう一つ感じたことがあります。魚が小さいと言っても、その気になって見れば、実はいっぱい見えるんですね。一匹見つかると、その近くにはうじゃうじゃという感じで見えるんです。これは、人間のもつ先入観の影響が大きいのだと思います。要するに魚がいないと思って漠然と見ていると川の底の砂とか石とかしか見えないんですが、魚がいると信じていると見えるんです。ですから、いかに先入観というのが人間に大きな影響を及ぼしているかということも感じました。

これから社会に出ると、社会のいろいろな目というものを覚えるかもしれません。そこにはさまざまな先入観が入っているでしょう。でも、それは結局見る側の人間がもつ一種の弱さの反映で、そういう外からの目にこっちが負けてしまうと、自分がさらに弱くなります。時には厳しく感じられるかもしれない社会の目に負けずに頑張っ生きていって頂きたいと思います。

それから、やはり自分自身がそういう先入観で片寄った目で外を見るということがあってはいけません。はじめはなかなかそのように理想的にはいかないと思いますが、できるだけ広い視野をもって、公正な目で、周りの人たちを見るつもりで社会を生きていかれたら、厳しい社会情勢の現在でも少しは住みよくなるのではないかと思います。社会に出たら、決して楽な生活が待っているとは限りませんが、今日の卒業を機会に、一つまた新たな決意で新しい人生を生きていって頂きたいと思います。

頑張ってください。

神戸松蔭女子学院大学
神戸松蔭女子学院大学短期大学部
学長 郡司 隆男